



南風原中央線 説明会

沖縄県南部土木事務所



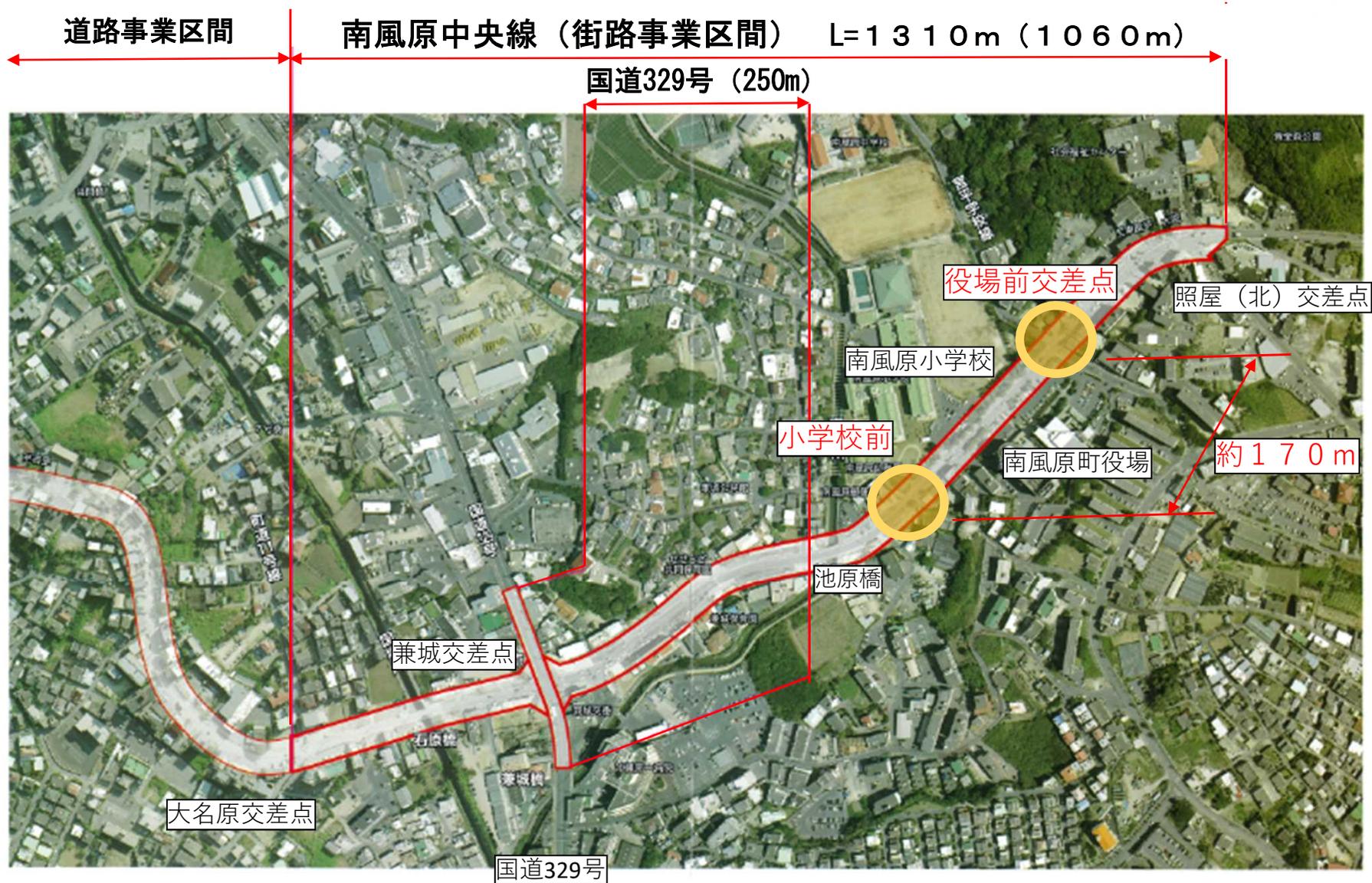
目次

1. 南風原中央線整備計画概要
2. 交通安全をとりまく状況
3. 小学校前の整備計画について
4. 兼城区住民及び各区長への説明会について



1. 南風原中央線整備計画概要

(1) 南風原中央線事業概要 (全体図)



(1) 南風原中央線事業概要

路線名：都市計画道路3・2・13号南風原中央線

事業区間：南風原町喜屋武～南風原町兼城

事業延長：1,310m

事業期間：平成12年度から令和4年度

進捗率：98%

道路規格：4種1級（4車線）

道路幅員：29m（兼城交差点から役場方向）

30m（　　　〃　　　から新川方向）

設計速度：50km/h

<事業目的>

町内の中心地を通過する重要な幹線道路

- ①現況の2車線から4車線に拡幅して交通渋滞を解消し、那覇都市圏の交通の円滑化を図る
- ②歩道幅員を広げ安全で快適な歩行者空間を確保する

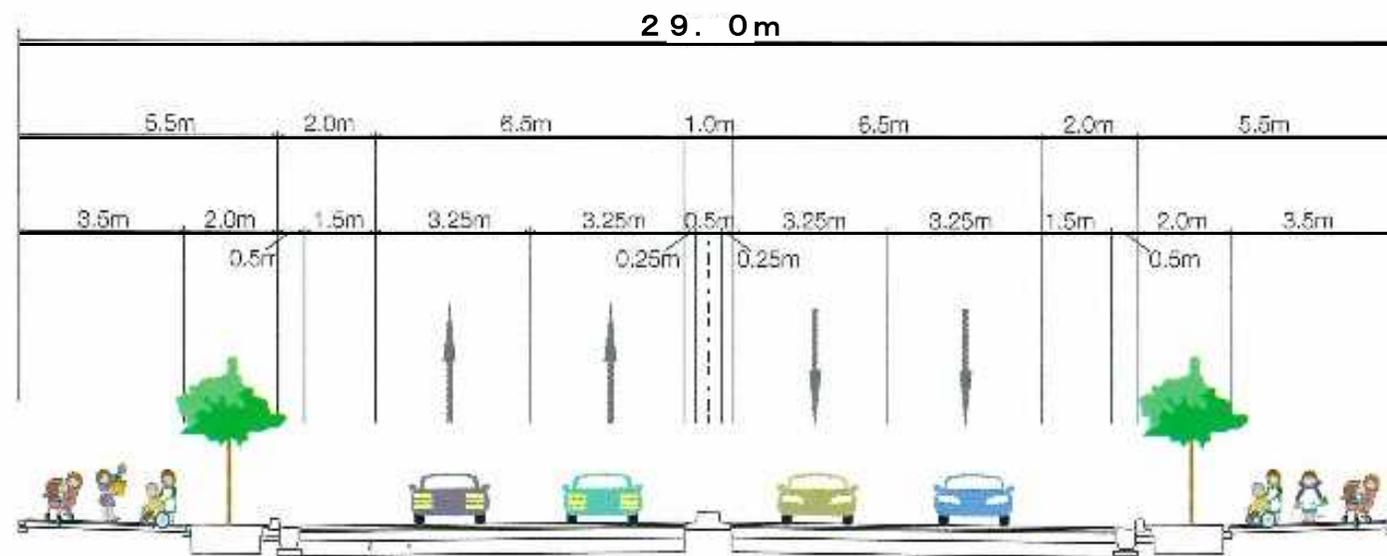
完成イメージ図 (兼城交差点から役場方面)



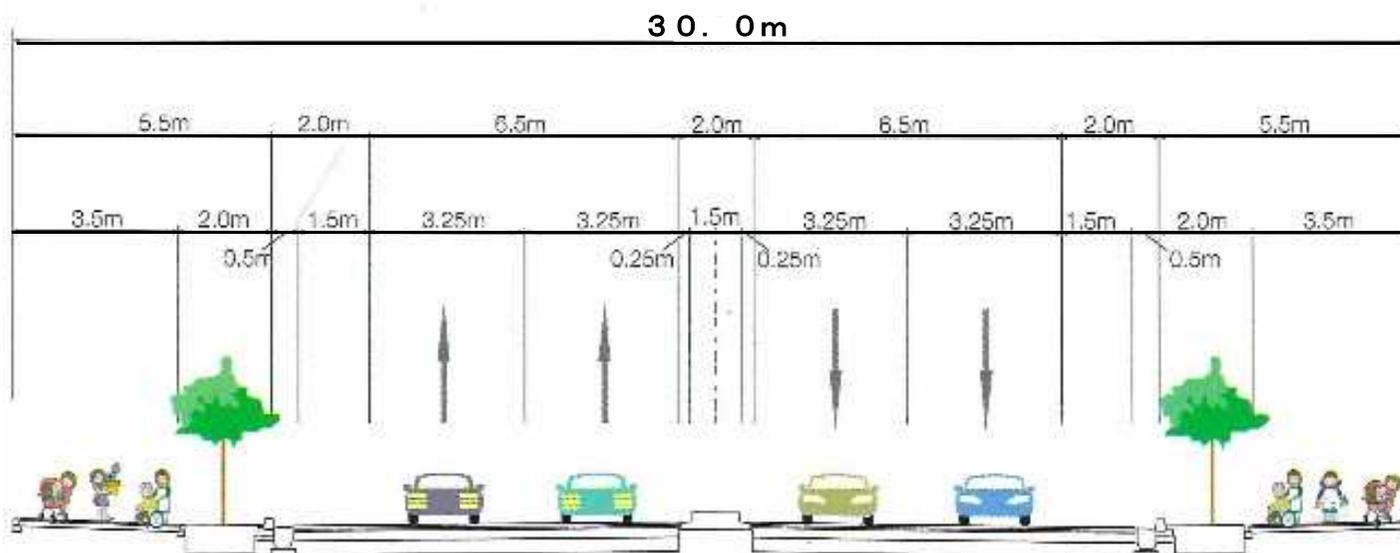
(2) 標準断面図

標準断面図

役場方向



新川方向



(3) 整備計画の主な経緯

平成10年：都市計画決定

南風原町字喜屋武から兼城まで 延長780m

平成12年：事業認可（兼城交差点から南風原中郵便局）

現在は1,310m

平成18年：工事着手

同年：事業認可変更（兼城交差点から照屋（北）交差点）

同年：都市計画変更



詳細設計

役場前の取付道路を計画に位置付ける

平成19年：事業認可変更

上記計画が事業認可される

平成25年：池原交差点から役場前交差点の区間が概ね形成

平成26年以降：役場前交差点から照屋（北）交差点間を工事

(4) 整備前の状況写真

大里側から兼城方面



兼城側から大里方面



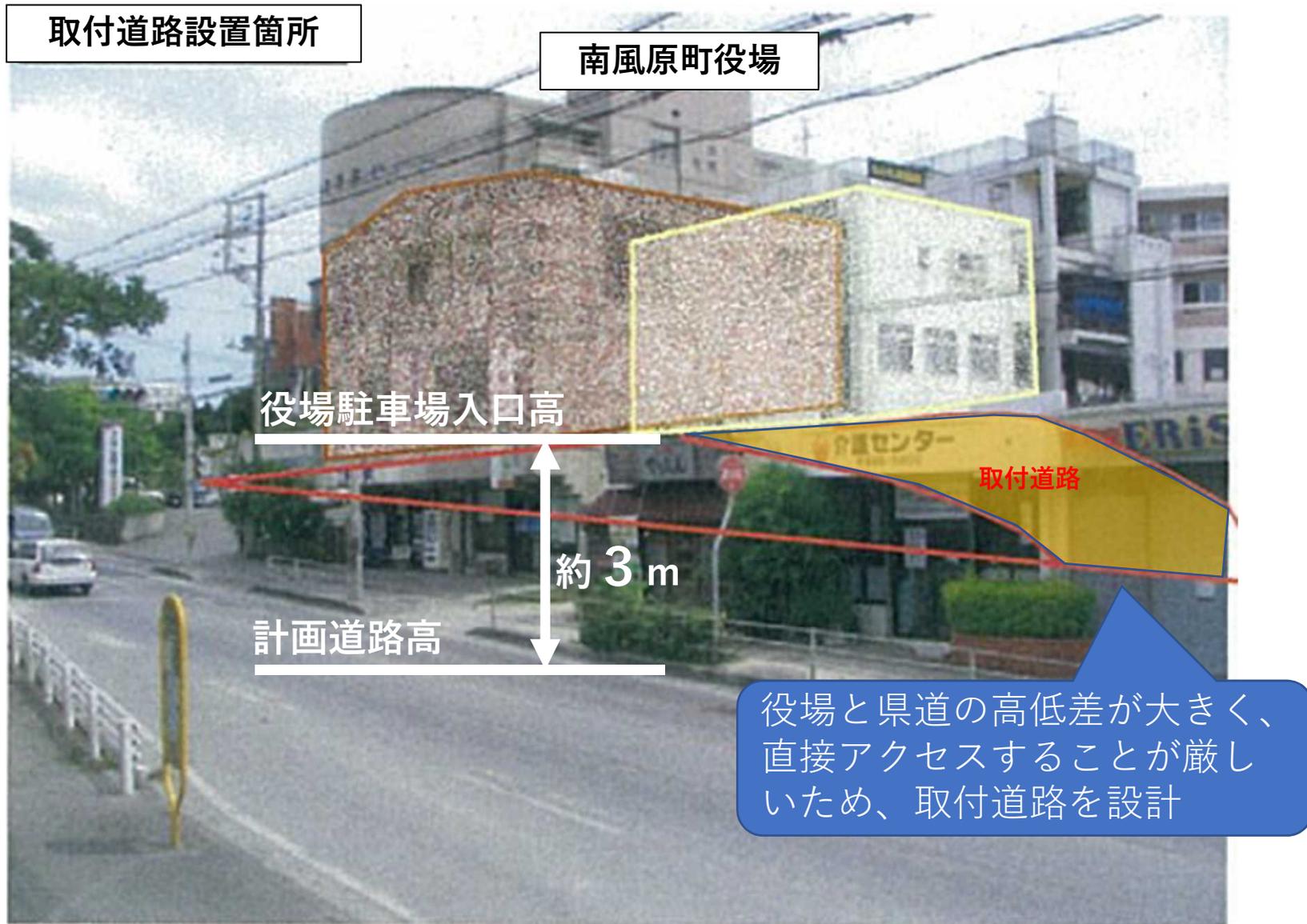
(5) 最近の状況写真



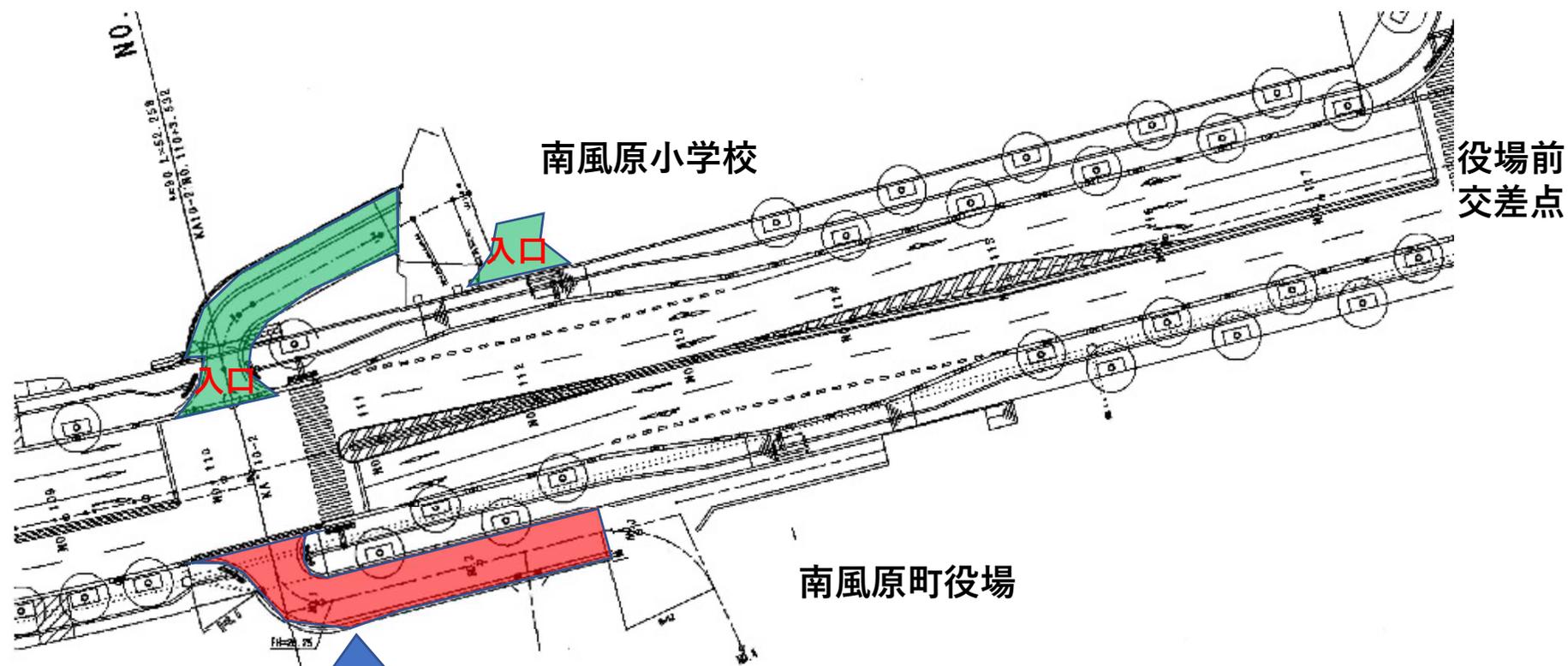
(6) H10年当初都市計画決定時の平面図 (参考)



(7) H18年都市計画変更について (計画道路との高低差)



(7) H18年都市計画変更について (平面図)



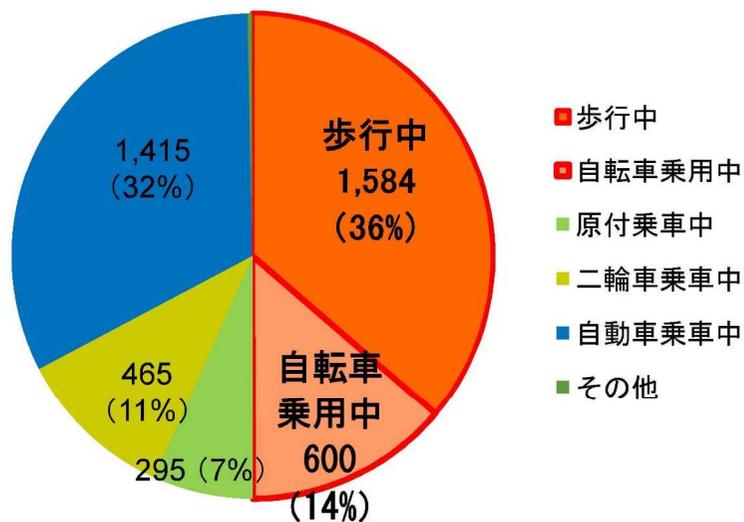
県道への取り付け道路を計画

2. 交通安全をとりまく状況

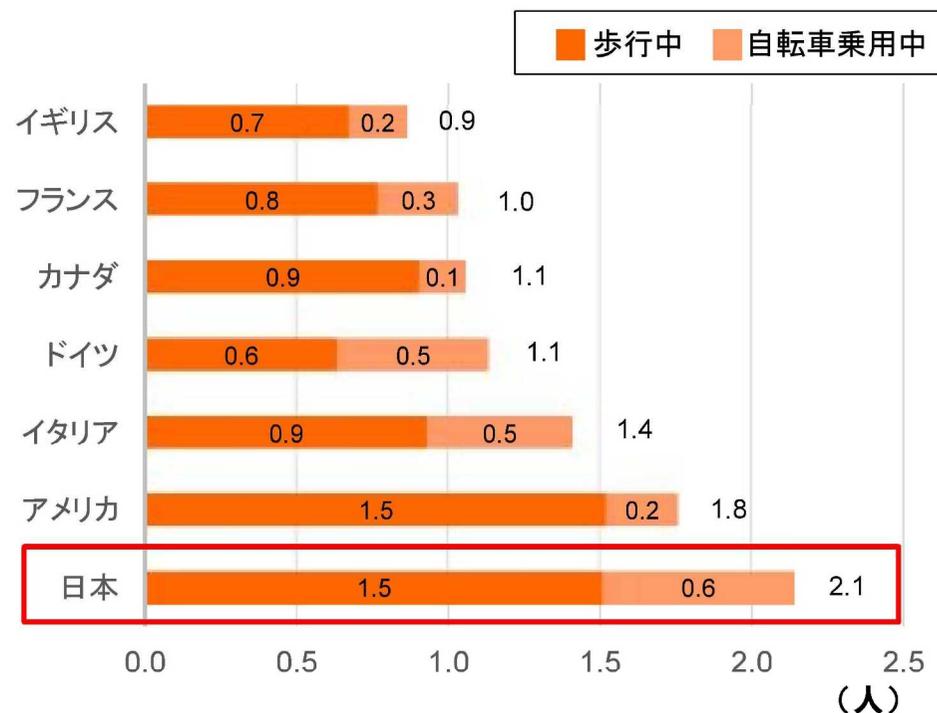
歩行中・自転車乗用中の死者数

- 歩行中及び自転車乗車中の死者数の比率が50%を占める。
- 人口あたり歩行中及び自転車乗車中の死者数は、先進国の中で最下位。

■状態別死者数(平成25年)



■人口10万人あたり死者数(歩行中・自転車乗用中)



※小数点1位未満を四捨五入のため、内訳の合計が総数に合わない場合がある

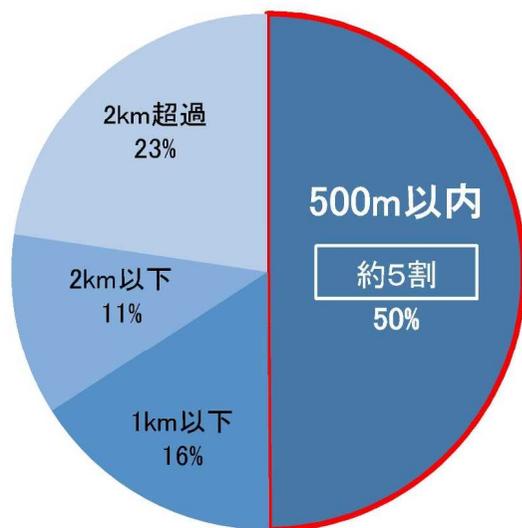
交通事故総合分析センター(ITARDA)データ(H25)をもとに作成

国際道路交通事故データベース(IRTAD)データ
(30日死者数(H24))をもとに作成

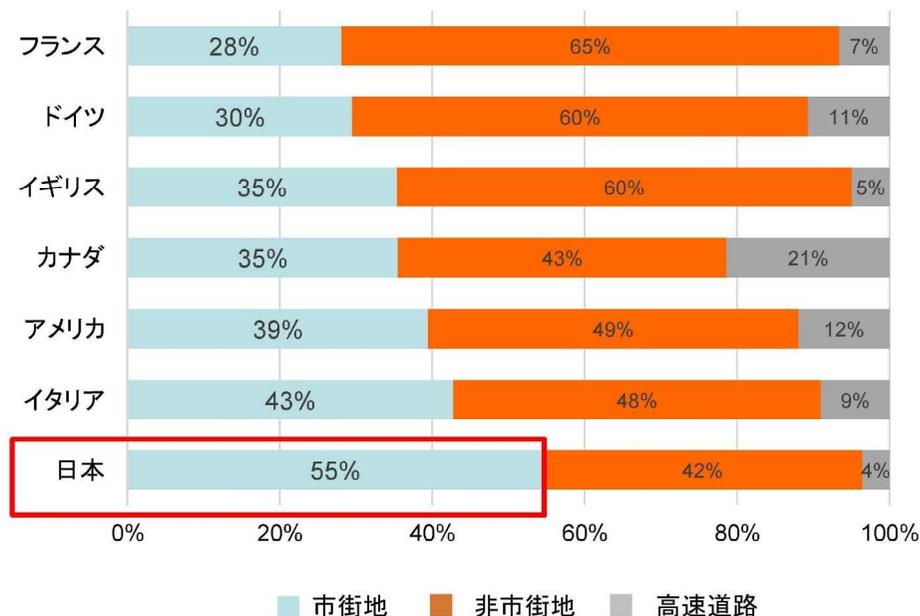
身近な道路で事故が発生

- 歩行中・自転車乗車中死者のうち、自宅から500m以内で死亡する割合が約半数。
- 市街地での死者数の割合が先進国の中で最下位。

■自宅からの距離別死亡事故発生状況
(歩行中・自転車乗用中)



■発生場所別交通事故死者数の割合
(全死者数)

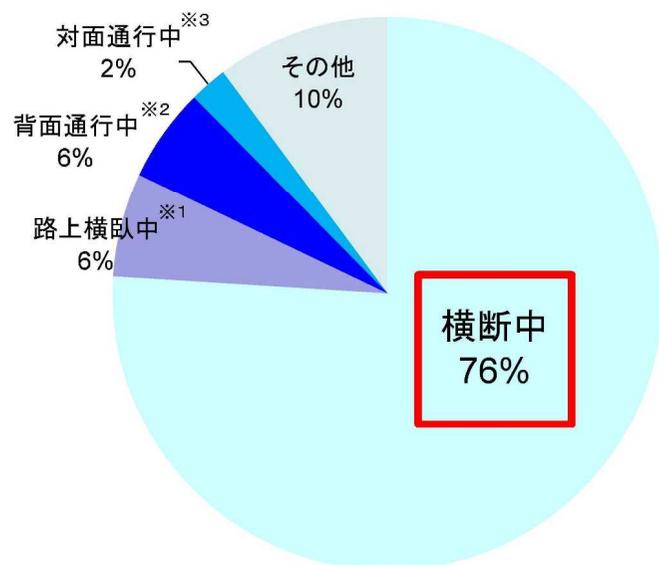


交通事故総合分析センター(ITARDA)データ(H25)をもとに作成

国際道路交通事故データベース(IRTAD)データ
(30日死者数(H24))をもとに作成

- 自宅から500m以内の歩行中の事故は、歩行者が横断中に発生。
- 自転車乗用中の事故は、車両との出会い頭の事故が多い。

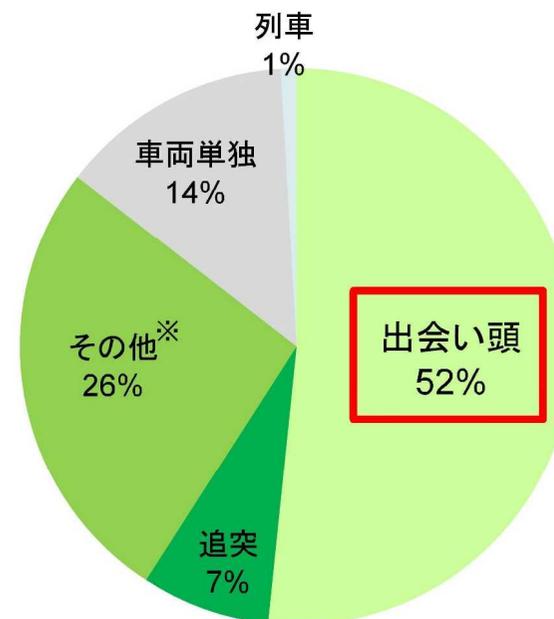
■自宅から500m以内の死亡事故の類型 (歩行中)



- ※1 路上横臥中とは、道路上に横たわっていた時に発生した事故をいう
- ※2 背面通行中とは、歩行者が道路を通行中、歩行者の後方から相手方車両が進行してきて発生した事故をいう
- ※3 対面通行中とは、歩行者が相手方車両と対面して道路を通行中に発生した事故をいう

交通事故総合分析センター(ITARDA)データ(H25)をもとに作成

■自宅から500m以内の死亡事故の類型 (自転車乗用中)



- ※車両相互(その他)には、車両相互(正面衝突、追越追抜時、右折時、左折時、その他)を含む

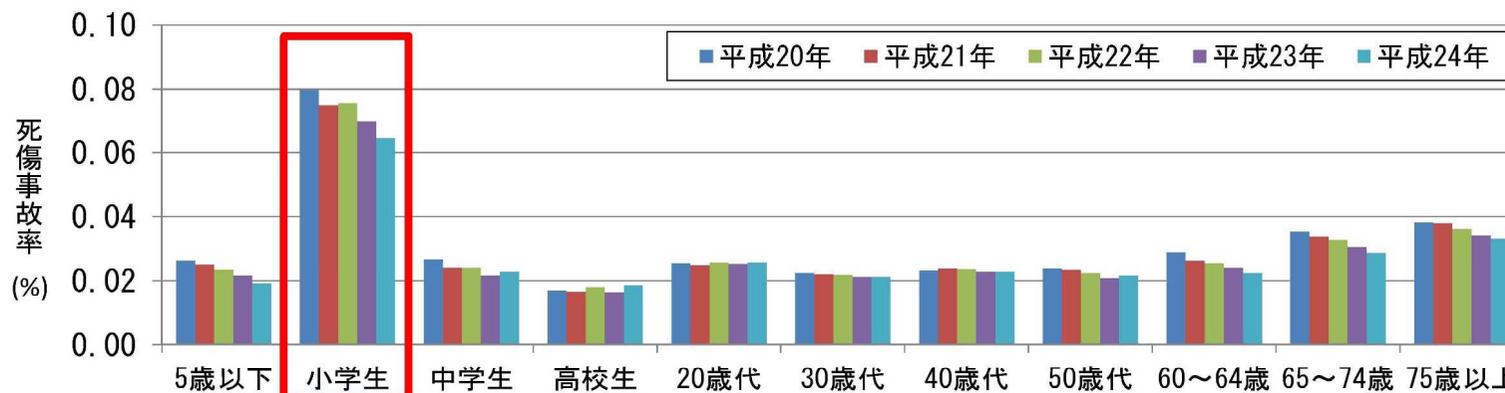
交通事故総合分析センター(ITARDA)データ(H25)をもとに作成

生活道路の交通事故被害者の特徴

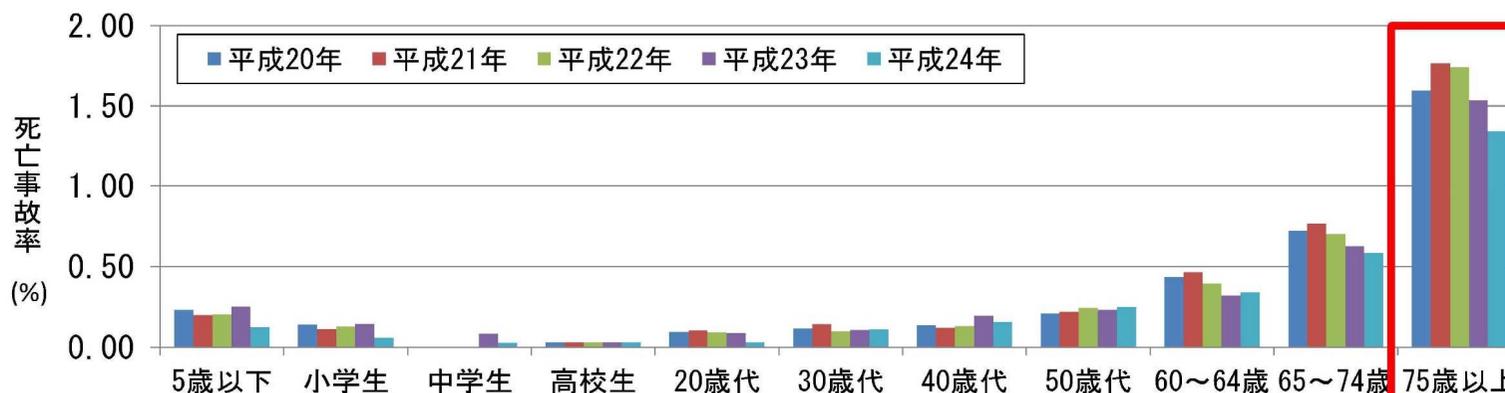


○生活道路における人口あたりの交通事故は、死傷事故では小学生、死亡事故では75歳以上の発生確率が高く、子どもや高齢者の事故率が高い。

■人口1人あたりの年代別死傷事故件数



■人口千人あたりの年代別死亡事故件数



※死亡(死傷)事故率=死亡(死傷)事故件数÷人口
 ※死亡(死傷)事故件数は、人対車両事故を対象に第2当事者の属性により算出
 ※幅員13.0m未満の市町村道を対象
 ※小学生、中学生、高校生の事故件数は、当事者の職業で抽出
 ※小学生、中学生、高校生の人口は、文部科学統計要覧（平成25年版）を使用
 ※小学生、中学生、高校生以外の人口は、総務省統計局HPの統計データ（人口推計）を使用